

二曲城(国史跡)(白山市出合町)

二曲城（ふとげじょう）は石川県白山市出合町にある中世の日本の城（山城）跡。川の対岸にある鳥越城の附（つけたり）として国の史跡に指定されている。府峠城とも言う。

概要

この地は白山麓門徒の指導者であった鈴木氏の本拠で、城は鈴木氏の館の背後にある詰城であった。城は大日川の河畔にある標高 267 メートルの独立峰城に築かれており、山頂が削平されていて郭となり、尾根上にも郭と堀がある。

1580 年（天正 8 年）に織田軍の攻撃により落城するが、さらに一向一揆の抵抗は続き 1582 年（天正 10 年）に一揆衆が城を奪還した。しかし数か月後には再度落城し、一揆衆 300 人余りが処刑され一揆衆の抵抗は終わった。

Wikipedia による

当城跡は、鳥越（とりごえ）城跡とともに織田信長（おだのぶなが）の攻勢に最後まで抵抗した、白山麓（ろく）の一向一揆（いっこういっき）の拠点となった城跡である。二曲の地は、白山麓門徒の指導者であった鈴木（二曲）氏の本拠で、本来、この城跡は、山麓の通称「殿様屋敷（とのさまやしき）」の館に居住した同氏の砦（とりで）であった。城跡は鳥越城跡から大日川の対岸に相対する標高二六八メートルの独立峰上に築かれており、山頂は平坦に削平（さくへい）されていて、屋根上に腰郭と空堀の遺構が確認できる。天正八年（一五八〇）十一月、鳥越城跡とともに落城するが、山内衆の抵抗はこれをもって終わらなかった。『信長公記（のぶながこうき）』によれば、翌天正九年（一五八一）二月、加州（かしゅう）一揆が蜂起（ほうき）して「ふとうげ」に入置かれた柴田勝家（しばたかついえ）の人数三百人を悉（ことごと）く討ち果たしたとある。しかしこれも、織田方の佐久間盛政（さくまもりまさ）によって鎮圧された。翌天正十年、一揆衆は再度鳥越・二曲両城を奪還（だっかん）するが、同年三月、生捕者三百余人の礮（はりつけ）により終息（しゅうそく）する。二曲城跡は鳥越城跡とともに加賀一向一揆の最後の砦（とりで）となった歴史の舞台としての意義をもつことから、史跡に指定され、保存が図られている。

現地案内板による

二曲（ふとげ）城は、石川県白山市にあった城郭です。

二曲の地は、白山麓門徒（山内衆）の指導者であった鈴木（二曲）氏の本拠地で、本来この城跡は山麓の通称「殿様屋敷」の館に居住した同氏の砦でした。

天正八年(1580)二曲城は、鈴木一族が討たれた事によって鳥越城と共に落城しますが、山内衆の抵抗はこれで終わりませんでした。「信長公記」によれば天正九年(1581)に加州一揆が蜂起して「府峠（ふとうげ）」に配置された柴田勝家の軍勢 300 人を悉く討ち果たしたとあります。しかし、翌天正十年(1582)、一向一揆勢は織田方の佐久間盛政によって鎮圧され、生存者数百人の礮により終息しました。

二曲（ふとげ）の由来については、城主の姫君の髪がことのほか長く、背をつたって下に二曲たまっていたことによる、との言い伝えがあります。また三坂峠を越えていく道は国府へ行く道であったので、府峠（ふとうげ）と呼んだことによるとの説もあります。

城は鳥越城から大日川の対岸に相対する標高 260 メートルの独立峰上に築かれました。山頂は平坦に削平されており、尾根上には腰郭と空堀の遺構が確認できます。

お城散歩による

“二曲”名前の由来

鈴木出羽守の居城は二曲の城山です。「村名由緒書上申帳」によると、出羽守の姫君がことのほか長く、背をつたって下に二曲(ふたげ)たまるので、二曲姫といったといい、この姫君が住んでいたのが村名になったと古老が申し伝えたとしている。

また三坂峠を超えて行く道は国府へ行く道であるので、“府峠”(ふとうげ)と呼んだのが二曲となったという説もある。

しかし「鈴木系図」の奥書に、“二輪筥”(ふたわけ)と記しているのは注目すべく、この村落の背後の山は二つの峰から成り、あたかも双輪のように見える。筥というのは食器のことで、仏飯は筥に山盛りにするのが、この二つの山頂は仏飯を二つ並べた形である。仏飯(おぼつけさま)に似た山形は“飯豊山”(いいでやま)として崇拝されるから、この二曲山は、その形の上から白山修験の霊場とされ、それを正面に拝し、鳥越坂へとつづくところに別宮(熊野社)が設定されたと考えられないだろうか。

